

平成 11 年エイズ発生動向年報 - 総括 -

厚生省エイズ動向委員会

1.エイズ動向委員会は、2ヶ月ごとに委員会を開催し、都道府県等からの報告に基づき患者発生動向を把握し公表している。今般、平成 11 年 1 年間の発生動向を取りまとめたので報告する。

2.平成 11 年の発生動向については、分析結果に詳細に述べられているが、委員会として特に注目した点は以下の通りである。

(1) HIV 感染者の報告数は、1996 年以降増加を続け、1999 年は過去最高の報告数 (530 件) となった (図 1)。HIV 感染者の増加は、日本国籍男性の増加が中心であり、日本国籍女性も緩やかな増加傾向にある (図 2)。

1999 年の HIV 感染者報告例では、日本国籍男性が 72% を占め (図 3)、推定される感染地域も日本国籍者の 79% が国内感染であった (図 4)。感染経路は、性的接触による感染が 77% (図 5) を占め、特に日本国籍男性では 84% を占めていた。

日本国籍男性に国内での流行拡大が続いており、異性間および同性間の性感染防止に向けた積極的な対策を進めなければならない。

(2) AIDS 患者の報告数は、発生動向調査開始以来はじめて 1998 年には減少に転じたが、1999 年は再び増加した (300 件、図 1)。1999 年の AIDS 患者報告例では、日本国籍男性が 71% を占め (図 3)、日本国籍者における推定感染地域は 69% が国内での感染例であった (図 4)。感染経路は、異性間性的接触による感染が 55% と多く、同性間の性的接触による感染は 18% であった (図 5)。

わが国における AIDS 患者は依然増加傾向にあると思われ、今後の推移を注意深く見守る必要がある。

(3) 1999 年の報告例の内、外国国籍者の占める割合は HIV 感染者では 20%、AIDS 患者では 25% であり (図 3)、出身地域としては、東南アジアが最も多く、ラテンアメリカがそれに次いでいた。外国国籍者に対する対策も強化する必要がある。

図 1 . HIV 感染者及び AIDS 患者報告数の年次推移

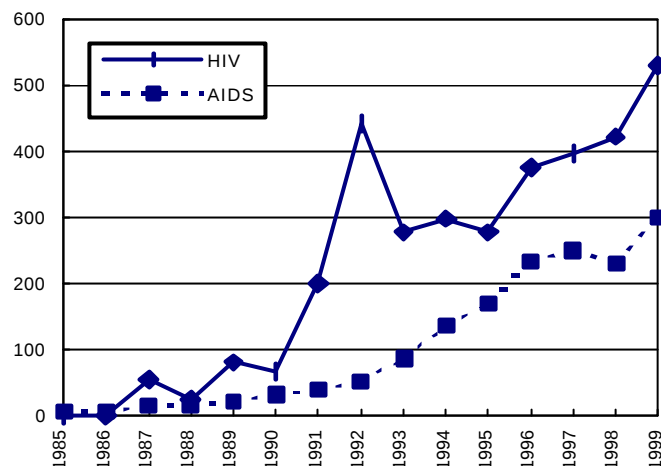


図 2 . HIV 感染者報告数の国籍別、性別年次推移

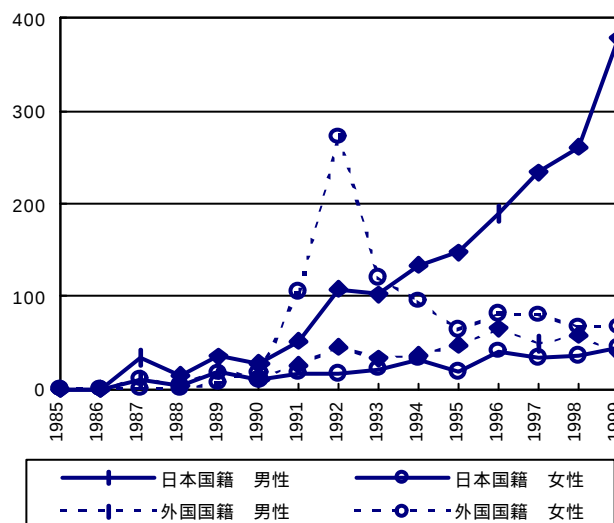


図 3 . HIV 感染者及び AIDS 患者の国籍別、性別内訳 (1999 年報告例)

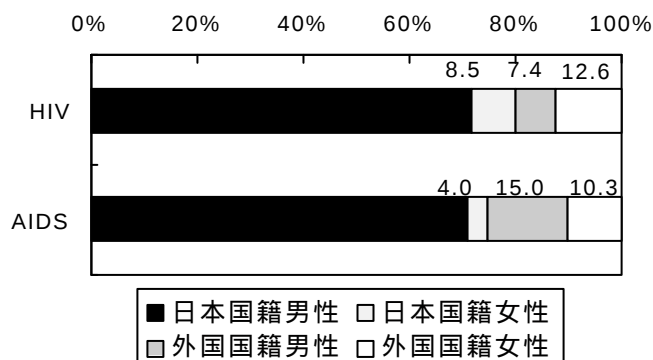


図4.HIV 感染者及び AIDS 患者の推定感染地域
(1999年報告・日本国籍例)

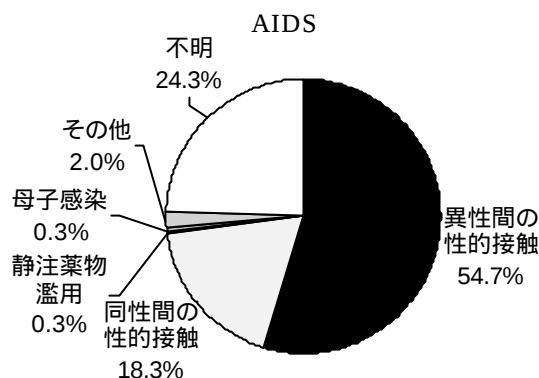
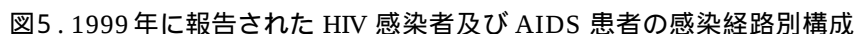


図 6. HIV 感染者報告数の報告地別年次推移

